

耕土耕心

第30号

令和5年
2月20日

編集・発行

静岡県立農林環境
専門職大学同窓会

〒438-8577
磐田市富丘678の1
電話
0538-31-7901

食料安全保障について 考える

同窓会長 大原正和



春寒の候、皆様におかれましては
ますますご健勝のこととお慶び申し
上げます。

昨年も一昨年同様コロナに明け、
コロナに翻弄された一年でしたが、
コロナはもうたくさんと思っ
ている諸兄が多いと思います。

でも少しづつコロナとの付き合い
方がわかり、買い物、食事、旅行、
会議、集団行動などコロナが蔓延す
る前の社会活動に近づいています。
これからの感染の波が来るでしょう
が前向きに生きていきましょ

現在の我が国の食料自給率はカロ
リーベースで38%となっており先進
諸国では最低水準になっています。
何とかこれを押し上げたいのです
が、昨年の2月、ウクライナで現代
社会では想定できない戦争が勃発し
ました。この影響でウクライナ、ロ
シア両国の穀物を主体とした農産物
輸出が激減し、世界の食糧事情が一
変しました。また、欧米のロシアに
対する経済制裁が発動され、これを
契機に世界のあらゆる物資の流れが
滞り、農業においては燃油、肥料な
ど主要な生産資材の価格が高騰しま
した。農家はコストアップによる経
営危機に直面し、食料自給率向上ど
ころか今年の農業生産維持が困難に
なっています。

こうした状況の中、国は食料安全
保障の観点から「食料、農業、農村
基本法」の改訂作業を進めていま
す。そもそも基本法は、

- ①食料の安定供給
- ②多面的機能の発揮

③農業の持続的発展
④農村の振興
を柱としてまいりましたが、肥料をは
じめとした農業資材は輸入すること
を前提としていました。これが根底
から崩れているため、どうやって食
糧安保を達成するのは非常に難し
い課題です。
現在、

- ①食料の国産化・国内資源の有効活用
- ②輸入の安定・輸出促進
- ③適正な価格形成
- ④平時の食料確保

などを論点としていますが、この
ことは農業だけではなく国民全体の
課題にしていかなければなりません。

紙面が少なくなつたので、食糧安
保の結論を言うと「国民は米中心の
食生活に改め、国産農産物を選んで
購入し、農業の現状を理解する。国
は国際競争に負けない大規模農家を
育てるとともに、中小農家に対して
は農業経営に必要な所得を補填し、
生産維持を促す。」ということす

「アグリフォーレ」の フライト

農林環境専門職大学学長 鈴木滋彦



同窓会の皆様におかれましては、
ますますご清祥のこととお慶び申し
上げます。

全国初の農林業系専門職大学の開
学は、飛行機にたとえるならば、新
型コロナ感染症という視界不良の霧
が立ち込めるなかでしたが、無事に
離陸し、ただいま開学3年目を終え
ようとしています。

本年3月には短期大学部で2回目
の学位記授与式を行い、開学4年目
を迎える4月には四大の学生が1年
から4年まで全部揃うことになりま
す。なんとか離陸に成功した「アグ
リフォーレ」という名の飛行機は、
学生を満杯にして、高い教育目標で
の安定飛行を目指して、さらに高度
をあげようとしているところです。

高い教育目標の一つに「臨地実務
実習」があり、専門職大学の特徴で
あると言われています。これは専門
に関連する現場で実践的な実習を行

うという意味ですが、長期のインターンシップを想像して頂ければと思います。本学の場合、実践的な生産技術と同時に、経営感覚を学ぶことを目標としています。これまで、インターンシップと聞くと、大学側は預けるだけというイメージがありました。専門職大学が行う臨地実務実習は受け入れ先と大学が一体となつて人材育成をしていくところが大きな特徴です。実習の終了後は、学生の成長を見ることができま

す。さて、飛行機は高度を上げつつありますが、昨年2月に発生した大きな「乱気流」が気になっています。肥料、飼料、農薬などを例に挙げるまでもなく、エネルギーや国際社会の秩序にまで影響を及ぼしています。本学の学生には、予見の難しい時代を生きる力を身に付けてほしいと願っています。

《支部だより》 思い出を振り返り

志太榛原支部長 山本規
【昭和50年度農業短卒】

昭和四十九年四月北安東の地を五十名の同窓生とともに静岡県立農業短期大学校総合農業学科第一期生

として入学、それから四十七年が経とうとしています。入学当時には想像すらできなかった現在の農業全般を取り巻く環境変化、この厳しい中でも同窓生は知恵を絞り、汗を流し、声を出して地域をけん引する農業先駆者として頑張っています。

北安東の農短跡地は県立総合病院として多くの生命を誕生させ守っています。磐田に移転した農林大学校は最新技術と農業の基礎を学び、これからの静岡県農業を牽引する若者を育てる専門職大学に令和二年開学されました。

在学時の北安東の寮では先輩や同僚の財布を当てにしながら夜な夜な「ひかり」「渉(まさご)」「古都」に足を運んだ寮生も多かったと思います。

記憶に残る大きな事件の一つは「七夕豪雨」、夜半からの豪雨の後、日を浴びるに従い目に入った光景は学校周辺住居の浸水でした。寮の部屋から駄々見ているしかありませんでした。そしてもう一つは、静岡駅前地下街ガス爆発、バイトでお世話になっていた店も被害を受けましたが、誰一人として生徒への被害がなかったことが不幸中の幸いでした。卒業後、それぞれの道に進み農業者として新聞紙面に各種品評会で名をはせ、地域のリーダーや農協指導員などで活躍する名前を聞くたびに二年間の充実した勉学を支えてくれた先生や同僚、先輩の顔が浮かんできました。自分の専攻分野以外でわからないことは「あいつに聞けば解

決する」と県下全域のネットワークを活用し解決できたのも二年間で培われた絆と想っています。現在在学している生徒の皆さん、県下には多くの先輩が多面にわたって活躍しています。この絆をいかに活用し自ら輪の中に入り自分を磨いてください。聞くことを恥じることなく、聞いて自分の知識として蓄える気持ちを常に持つてください。共に頑張

次代 農業の流れ

中遠支部長 朝比奈 篤
【昭和53年度農業短卒】

私は、昭和54年3月に農業短期大学校総合農業学科を卒業しました。この短大生活の2年間が、私の学生生活の中で一番濃いものとなり、寮生活・4人でのルームシェア生活・農試での研究など、あげれば切りがありませんが、生活が一変し社会に出るため大きな助けとなりました。卒業後は、地元の森町農協(現遠州中央農協)に入組し、営農指導部署に配属され、以来JA職員として36年JA役員として6年、41年間全て営農事業に携わりながら、農協人生の幕を下ろすことができ関係する皆様には感謝しております。

現在、1組社員として農業をしています。早々に農業の大変さを

痛感しております。労働力は私一人なので、作業に追われ続ける毎日、思った作業ができないのが現状で、かつ体を使う重労働もあります。もっと、ゆとりある農業ができると思っていたのですが、想定外でした。唯一、良かったのは体重が10キロ減ったことです。

退任したらずぐ部農会の役が来ました。私が就農してから2人が離農し、部農会員は現在15名、私がJAに入組した頃は70名近く、会合を開くと公民館は人で溢れておりましたが、今はガランとしております。しかし、農業法人化が進み、私の部農会でも、2つの法人が立ち上がっており、大型農家も含めそれぞれ農地が集積され、雇用者も増え野良で回りを見ると、農業者が大勢で作業をしており、活気に満ち溢れております。次代の流れですね。

私も41年間、農業の次代への変遷を間近で見えてまいりました。これからも行きつくところなく、次代に向け改善・改革が進んで行くと思

います。さらなる農林業の発展と、同窓会員の皆様並びに農林環境専門職大学の皆様のご活躍を祈念いたします。



《学校の話題》 多くの同窓生が過ごした 男子寮の解体

農林環境専門職大学事務局

昭和55年4月に、農業短期大学校と林業短期大学校が統合して、現在の場所（旧磐田郡豊田町）に、農林短期大学校が設立されました。以来約40年にわたって多くの同窓生の皆様が過ごされた男子寮の解体工事が、本年度行われています。跡地は、今後、学生たちの憩いの場に整備される予定です。

また、既存の女子寮は、現在改修工事が行われており、来年度から使用を再開する予定です。

本年度4月から供用開始した新学生寮においても、学生は2人部屋で仲間と触れあう共同生活を経験しています。農林業現場では欠かせない社会性やコミュニケーション能力を養うとともに、同窓生の皆様と同じように、たくさんの学生生活の思い出を作ってほしいと思います。



男子寮メモリーズ



▶ 建設当時

◀ 居室



◀ 食堂・ある日のメニュー



《若手会員から》 台風被害を 乗り越えて

中村 優（旧姓西牧）
【平成29年度農林大卒】

農林大学校を卒業後、JA遠州中央へ入組し今年で5年目になりました。はじめの2年間は、営農センターの購買窓口担当として肥料農薬や資材を取り扱っていました。そして3年目に営農指導員として仕事をすることとなり、今は磐田地区のいちごと青梗菜を担当しています。

仕事をしてきた中で、今年はとても印象深い年となりました。令和4年9月23日に接近した台風15号によって、JA遠州中央管内でも多くの被害ができました。台風が過ぎ去った翌日、朝から被害調査に赴くと、圃場の中にはまだ水が残っており、泥水をかぶった葉は茶色く汚れ、定植した苗が流されていたりと、前日までとは一変した姿となりました。被害を受けた方は、自然のことだからね、仕方ないね、と話していましたが、たった一晩で見るに堪えない姿となった作物を前に、私は悔しくてたまりませんでした。しかし、一刻も早く復旧することが最優先です。今やるべきことを話し合いながら、植え替え用の苗の斡旋や、被害の受けていない方に育苗スペー

スを借りる手配を取るなど、復旧に向けて農家の方と懸命に取り組んできました。

そして今、一部の作物では未だ影響は残っていますが、圃場を見る限りでは台風の影響など無かったかのように感じます。これはひとえに生産者の方の努力でありますが、それを支える仕事ができていることを嬉しく思います。

これから先も、J A 遠州中央の農業を支えるため、日々努力し仕事に励んでいきたいと思えます。



今後の同窓会運営を 考える

農林環境専門職大学短期大学部
講師 青山東一（同窓会監事）
【昭和54年度農業短卒】

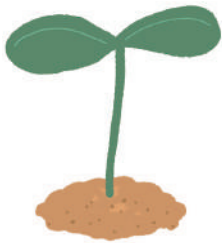
私は、静岡市北安東最後の農業短期大学卒業生であり、その後県職員として、農業に係る部署で仕

事をさせてもらいました。現在は、母校で三回目となる勤務で農業を担う人材育成に携わっています。大学校、専門職大学と内部にいる同窓生ということ、同窓会監事として、事務局の同窓会運営のお手伝いをさせてもらっています。

歴代の会長や支部長など、多くの同窓会役員は、農業講習所、農業中央専門研修所を卒業し、農業改良普及員として県職員となった諸先輩方が退職後に担ってくれていました。が、世代交代する年代となってきました。

今後二年間の新しい役員は決まりましたが、二年後には、各支部で役員の世代交代を図りたいとの意見が役員会で漏れ聞こえていました。私自身も前任者から西部支部の事務局を引き継ぎ、十年以上会報の發送事務をしています。次の役員改選では、支部長候補だと現支部長からの指名をうけております。

支部長とごく一部の会員が各支部の運営を担っているのを長年見ていることから、この会報を読んだ会員の中から、まずは支部運営のお手伝いをしてほしいと手を挙げてくれる方が現れてくれることを願い同窓会報に寄稿しました。



林業分校の卒業アルバム引き取り募集

浜松市浜北区にあった林業分校は、専門職大学の開学に伴い、令和2年度末で閉校しました。

校舎の片付けをしたところ、卒業アルバム（昭和45年～平成22年）が見つかりました。同窓生の皆様の中で、アルバムの引き取りを希望される方や現物を確認したい方がいらっしゃいましたら、
専門職大学教務課
（0538-31-7906）

までご連絡ください。なお、保管期限は令和5年度末までとします。



〈事務局からのお願い〉
住所変更、訃報等は、各支部長又は支部役員まで連絡をお願いします。